



地域研究集会

第 12 回東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会 漁獲物の変化に利用・加工が挑む

日時：2025 年 10 月 6 日（月）

現地見学会：10:00～12:00 塩釜水産物仲卸市場見学・昼食（希望者のみ）

研究集会：13:00～17:30

場所：現地会場とオンライン（Microsoft Teams）のハイブリッド

現地：塩竈市魚市場大会議室（中央棟 2 階）（宮城県塩竈市新浜町 1-13-1）

共催：宮城県，公立大学法人宮城大学，国立研究開発法人水産研究・教育機構

後援：塩竈市，塩釜水産加工業協同組合，塩釜地区水産加工業協同組合，塩釜市団地水産加工業協同組合，塩釜魚市場水産加工業協同組合，宮城県水産加工研究団体連合会，宮城県漁業協同組合，宮城県近海底曳網漁業協同組合，塩釜地区機船漁業協同組合，協同組合塩釜水産物仲卸市場，塩釜市魚市場買受人協同組合，みなと塩釜魚市場株式会社，株式会社仙台水産，仙都魚類株式会社，宮城県産地魚市場協会，宮城県水産物流通対策協議会，塩釜商工会議所，塩釜市水産振興協議会（順不同）

コンビーナー：永木利幸（宮城県仙台地方振興事務所）・鈴木貢治（宮城水技セ）・西川正純（宮城大）・笥 茂穂（水産機構資源研）

参加申し込み URL：<https://forms.office.com/r/KziiP290GB>

問合せ先：kakehi_shigeho43@fra.go.jp



プログラム

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 挨拶： 会長（一般社団法人水産海洋学会） | 13:00～13:10 |
| 塩竈市長 | |
| 趣旨説明：永木利幸（宮城県仙台地方振興事務所） | 13:10～13:30 |
| 話題： | |
| 座長：永木利幸（宮城県仙台地方振興事務所） | |
| (1) 東北海域における漁獲物の変化 | |
| 笥 茂穂（水産機構資源研） | 13:30～14:00 |
| (2) テナガダラの利活用について | |
| 上田智広（岩手水技セ） | 14:00～14:25 |
| (3) さめ類の有効利活用について | |

西川正純（宮城大）

14:25～14:50

(4) ノリの食害対策のためのクロダイ利用を目指した食味特性の把握

橋本加奈子（水産機構技術研）・

伊藤友洋（千葉水研セ）

14:50～15:15

座長：鈴木貢治（宮城水技セ）

(5) 暖水性魚種、低・未利用魚種の活用に向けた取組み

菅原幹太（宮城水技セ）

15:15～15:40

(6) 暖水性魚種（チダイ、アカムツ）の商品開発 ～石巻金華シリーズ～

平塚隆一郎（山徳平塚水産）

15:40～15:55

(7) 未利用魚の魅力を伝える取組み

松並理恵（マルサン松並商店）

15:55～16:10

（休憩）16:10～16:20

(8) 総合討論

進行：西川正純（宮城大）・永木利幸（宮城県仙台地方振興事務所）

・鈴木貢治（宮城水技セ）

16:20～17:30

開催趣旨：気候変動に伴う水温等の海洋環境の変化により、日本沿岸各地の地先に水揚げされる魚種が変化してきている。東北太平洋岸では、水揚げ量・額ともに少くない割合を占めていたサケやサンマなどの冷水性魚種の漁獲量が減少する一方で、ブリ、マダイ、タチウオなどの暖水性魚種の漁獲量が増加している。これまで地域になじみのなかった魚種は、地元の個人消費者が購入することは少なく、水産加工場で扱われることも少ない。そのため、水揚げしても高値がつかず、漁業者の収入に直結していない。そのような魚種は低利用魚・未利用魚と呼ばれ、その有効利用は地域の水産業の重要な課題の一つである。本集会では、低利用魚・未利用魚の利用・加工にチャレンジしてきた方から成功事例について紹介していただき、消費の拡大や新たなチャレンジにつなげるきっかけとしたい。

備考：2022年度より「三陸海域の水産業と海洋研究集会」を「東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会」として、研究集会の目的を引き継ぎつつ、より広域に話題を扱うものとする。